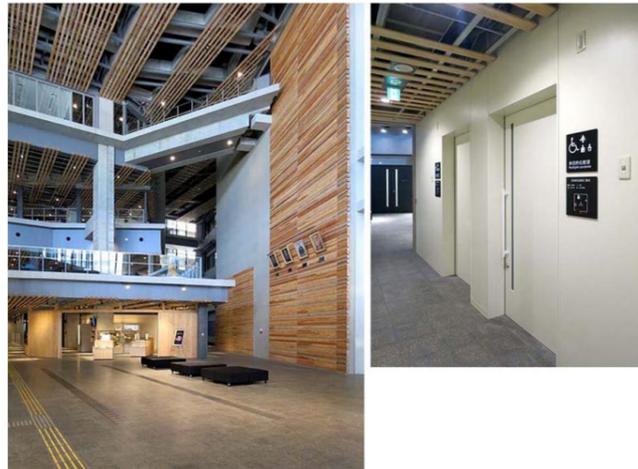


外観



長崎港を望む風景に溶け込んだ、「丘のような庁舎」。2022年開業予定の新幹線プラットフォームから女神大橋が見えることを基本構想に、庁舎の敷地形状が三角形となっている。

エントランスホール



4F吹き抜けのエントランスホールには大きなモニターがあり、およそ800人のキャンパティで、パブリックビューイングが楽しめる。天井には、地場産杉材が目透かし張りですんだんに使われている。

多機能トイレ



使用者が身体状況にあわせて使いやすい方を選べるように、左右勝手違いで多機能トイレを設置している。

女性職員トイレ 洗面コーナー



地場産杉材を用い、壁掛ハイバック洗面器と歯みがき用ボウルを並列させた、一体感のある空間。また、対面には身だしなみを整えられるスタイリングコーナーを設けている。

トイレサイン・外国人配慮



入口には、トイレ内の設備がわかる触知図を掲示。多機能トイレ内には、外国人配慮として、多言語対応(日・英・中)の音声ガイドを設置している。

男性・女性トイレ 洗面コーナー



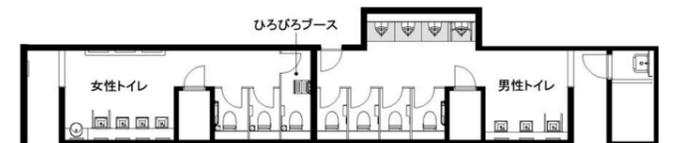
高齢者や杖歩行の方に配慮して、立位姿勢をサポートする手すり付きの洗面カウンターを設置。化粧鏡はバック照明付大型一面鏡を採用している。

女性職員トイレ 大便器ブース



女性トイレにひろびろブースを1ヶ所設置。ストッキングの履き替えなどに配慮し、折りたたみ式の着替え台と手すり(高さ900mm)を設けている。

職員トイレ図面



男性トイレ 小便器コーナー



小便器の間にはフックを設置し、手荷物にも配慮。また、小便器甲板を適宜脱着可能にし、メンテナンスも容易に実施できるよう配慮されている。

男性・女性トイレ 大便器ブース



大便器は、床面の清掃性に優れた壁掛大便器を採用し、すべての洋式便器にウォシュレットを設置。ライニングの甲板には地場産杉材を用い、やわらかな空間を演出している。

建築概要

名称	長崎県庁舎
所在地	長崎市尾上町3-1
施主	長崎県
設計	日建設計・松林建築設計事務所・池田設計 JV
施工	<行政棟・建築> 鹿島・上滝・堀内組 JV <行政棟・衛生> 双峰設備・九設工業・日本冷熱 JV
竣工年月	2017年11月

水まわりの特長

<建物の特徴>
長崎県旧庁舎は、1953(昭和28)年に竣工。施設の老朽化を始め、部署分散化、狭隘化への対応、さらに災害発生時の防災拠点施設としての耐震性の確保と適切な機能整備といった課題を解決するため、2017年に、新県庁舎を、JR長崎駅と長崎港を結ぶ位置に移転建設した。2022年の新幹線開通を見据え、ホームからの眺望も加味し、敷地建物形状を三角形とし、建物全体を低層化することで、低コストを実現。防災拠点の機能としては、非常用発電機や地震に強い緊急排水槽(7日分)を設けている。「丘のような庁舎」をコンセプトに、最上階には木造の展望室、屋内外にシティホールやイベントスペースを備え、休日でも執務エリアと区画し開放することで、県民利用重視はもちろん、観光への期待も高まる県庁となった。

<トイレの特長>
節水性、メンテナンス性に配慮された器具を選定。JR長崎駅からの人の流れも見込み、観光名所としての役割として多機能トイレには、外国語の音声案内装置を完備し、1Fの多機能トイレでは、左右勝手違いのバリエーションを設け、利用者が選んで使えるように工夫している。そのほか、建物の空間意匠に多用される地場産杉材を各器具のライニング甲板にも採用、やわらかで温かい印象の空間となっている。